

目 次

第1章 微生物学の歴史	1
1. 細菌学の歴史	2
A. 古代から中世における病因説	2
B. 顕微鏡の発明と微生物学の起源	3
C. Pasteur L の業績（自然発生説の否定）	3
D. Koch R の業績（病原細菌の分離と「コッホの4原則」）	4
E. 日本人の業績（病原細菌の発見）	5
F. 化学療法の時代	6
G. その他による業績	6
2. ウィルス学の歴史	7
A. ウィルスの発見	7
B. ウィルスの培養と性状解析	8
C. プリオンとウイロイドの発見	9
第2章 細菌の分類と微細構造	11
1. 細菌の分類	12
A. 細菌の定義	12
B. 細菌の分類法	12
C. 命名	14
D. 同定	15
E. 型別	15
2. 細菌の形態	15
A. 細菌の大きさ、形および配列	15
B. 細菌の観察	16
3. 細菌の構造と機能	18
A. 細胞膜	18
B. 細胞壁	18
C. 細胞質	20
D. 荚膜	21
E. べん毛	21
F. 線毛	21
G. 芽胞	22
第3章 細菌の増殖と代謝	23
1. 細菌の増殖	24
A. 栄養素	24
B. 細菌の増殖に影響する環境要因	24
C. 培地と培養	25
D. バクテリオシン	29
E. 細胞内寄生菌	29
F. 生きているが培養できない状態の菌（VNC）	29
2. 物質の獲得機構	29
A. 外膜における物質輸送	30
B. ペリプラズム	30

C. 細胞膜（内膜）	30
D. グラム陽性菌における物質輸送	31
E. 走性応答とべん毛	31
3. 細菌の代謝	31
A. 異化（エネルギー產生）	31
B. 同化（生合成）	33
第4章 細菌の遺伝学	39
1. 細菌のゲノム	40
A. 細菌ゲノムの構造、染色体とプラスミド	(高松大輔) 40
B. バクテリオファージ	(佐藤祐介) 45
2. 細菌の変異	(岡村雅史) 51
A. 細菌間の遺伝子の伝達	51
B. 細菌の変異	54
3. 細菌の遺伝子発現	(岡村雅史) 57
A. 遺伝子の基本構成	57
B. 遺伝子の発現調節	59
第5章 細菌の感染と発症	(度会雅久) 67
1. 細菌の病原性	68
A. 感染と発症	68
B. 感染経路と経過	68
C. 宿主-寄生体関係	69
D. 病原性と毒力（ビルレンス）	69
E. 感染症成立の要因	70
2. 生体防御機構	77
A. 物理的・化学的防御	77
B. 非特異的機構（自然免疫）	78
C. 特異的機構（適応免疫あるいは獲得免疫）	79
第6章 細菌学各論	81
1. <i>Enterobacteriales</i> （腸内細菌目）	82
A. <i>Enterobacteriales</i> の菌の分類と特徴	(山崎伸二) 82
B. エシェリキア属	(楠本正博) 84
C. シゲラ属	(楠本正博) 89
D. サルモネラ属	(岡村雅史) 90
E. エルシニア属	(川本恵子) 94
F. エドワジエラ属	(川本恵子) 99
G. クレブシエラ属	(川本恵子) 100
H. その他の <i>Enterobacteriales</i>	(川本恵子) 101
2. ビブリオ科	(山崎伸二) 102
A. ビブリオ科の菌の分類と特徴	102
B. ビブリオ属	103
C. フォトバクテリウム属	105
3. エロモナス科	(山崎伸二) 105
A. エロモナス科の菌の分類と特徴	105
B. エロモナス属	106
4. パスツレラ科	106

A. パスツレラ目パスツレラ科の菌の分類と特徴	(田邊太志・山本聰美)	106
B. パスツレラ属, マンヘイミア属, ビバーシュテニア属	(田邊太志・山本聰美)	107
C. ヘモフィルス属, アビバクテリウム属	(田邊太志・山本聰美)	110
D. ヒストフィルス属	(上野勇一)	111
E. アクチノバチルス属	(伊藤博哉)	112
5. シュードモナス目		113
A. シュードモナス科	(秋庭正人)	113
B. モラキセラ科	(角田 勤)	115
6. その他のガムマプロテオバクテリア綱（レジオネラ目を除く）	(度会雅久)	116
A. フランシセラ属		116
B. ディケロバクター属		118
7. ベータプロテオバクテリア綱	(木下優太)	119
A. バークホルデリア属		119
B. ボルデテラ属		121
C. テイロレラ属		123
D. ナイセリア属		124
8. アルファプロテオバクテリア綱		124
A. ブルセラ属	(度会雅久)	125
B. バルトネラ属	(佐藤真伍・丸山総一)	128
9. バクテロイデス門		129
A. バクテロイデス属	(高橋 香)	129
B. ポルフィロモナス属	(高橋 香)	130
C. プレボテラ属	(高橋 香)	131
D. フラボバクテリウム属	(和田新平)	131
E. テナシバキュラム属	(和田新平)	133
F. オルニソバクテリウム属	(岡村雅史)	134
G. カプノサイトファーガ属	(鈴木道雄)	134
H. リエメレラ属	(岡村雅史)	135
10. フソバクテリウム門	(鈴木道雄)	136
A. フソバクテリウム属		136
B. ストレプトバチルス属		137
11. らせん菌, スピロヘータ類		137
A. カンピロバクター属	(三澤尚明)	137
B. ヘリコバクター属	(三澤尚明)	139
C. ローソニア属	(三澤尚明)	140
D. "Spirillum mimus"	(三澤尚明)	140
E. スピロヘータ門	(中村修一)	141
12. グラム陽性球菌		145
A. ストレプトコッカス属（レンサ球菌属）	(高松大輔)	146
B. エンテロコッカス属およびメリソコッカス属	(高松大輔)	149
C. スタフィロコッカス属（ブドウ球菌属）	(胡 東良)	151
D. その他のグラム陽性球菌	(胡 東良)	156
13. グラム陽性芽胞形成桿菌		156
A. バチルス科およびペニバチルス科	(田邊太志・山本聰美)	156
B. クロストリジウム属	(幸田知子)	160
14. グラム陽性無芽胞性桿菌		165
A. リステリア属	(平山和宏)	165
B. エリジペロスリックス属	(下地善弘)	167

C. ラクトバチルス属および関連菌種	(平山和宏) ...	170
15. 放線菌関連菌 (アクチノマイセス門)		171
A. コリネバクテリウム属	(山本明彦) ...	171
B. マイコバクテリウム属	(川治聰子) ...	174
C. アクチノマイセス属	(山本明彦) ...	178
D. アクチノバクラム属	(山本明彦) ...	179
E. トルエペレラ属	(中馬猛久) ...	179
F. ノカルジア属	(角田 勤) ...	180
G. ロドコッカス属	(角田 勤) ...	181
H. デルマトフィルス属	(角田 勤) ...	182
I. ビフィドバクテリウム属	(大澤 朗) ...	183
J. レニバクテリウム属	(大澤 朗) ...	184
K. キューティバクテリウム属	(大澤 朗) ...	185
L. ストレプトマイセス属	(大澤 朗) ...	186
16. レジオネラ目 (コクシエラを含む), マイコプラズマ, リケッチャ, クラミジア		186
A. レジオネラ目	(山崎伸二) ...	186
B. リケッチャ目	(安藤匡子) ...	188
C. マイコプラズマ目, マイコプラズモイデス目, アコレプラズマ目	(上村涼子) ...	194
D. クラミジア目	(大屋賢司) ...	200
第7章 ウイルスの性状と分類		207
1. ウイルスの特徴	(高野友美) ...	208
2. ウイルスの構造	(高野友美) ...	208
A. 形 態		208
B. 構 造		209
3. ウイルスの分類	(堀本泰介) ...	212
A. ウイルスの分類基準		212
B. 国際ウイルス分類委員会		213
C. ウイルスの命名		214
D. その他の分類		214
E. 獣医学の対象ウイルス		217
第8章 ウイルスの増殖		225
1. 培 養	(遠矢幸伸) ...	226
A. 培養法		226
B. ウイルス感染に伴う細胞の変化		227
2. 定 量	(遠矢幸伸) ...	229
A. 感染価の測定法		229
B. その他の定量法		230
3. 増殖過程	(遠矢幸伸) ...	230
A. 増殖曲線		230
B. 増殖環		231
C. 細胞への感染様式		233
4. 相互作用	(小澤 真) ...	234
A. 干渉現象		234
B. 増 強		235
C. 相 補		236
D. 表現型混合		237

5. 変 異	(小澤 真) ...	237
A. 変異機構		238
B. 変異体		240
C. 進 化		241
第9章 ウィルスの病原性		243
1. 宿主への感染	(田原口智士) ...	244
A. 宿主動物		244
B. 感染経路		245
C. 体内におけるウィルスの増殖と伝播		246
D. ウィルスの放出		247
2. 体内での増殖・発症機序	(田原口智士) ...	248
A. 宿主動物		248
B. ウィルス感染症の発症		248
C. ウィルスの感染様式		249
3. 発がん機構	(村上賢二) ...	251
A. DNA ウィルス		251
B. RNA ウィルス		252
4. 回 復	(早坂大輔) ...	255
A. 自然免疫		255
B. 獲得免疫		256
第10章 ウィルス学各論とプリオン		259
1. 2本鎖DNAウイルス		260
A. アデノウイルス科	(田原口智士) ...	260
B. ポリオーマウイルス科	(桐澤力雄) ...	266
C. パピローマウイルス科	(芳賀 猛) ...	268
D. ヘルペスウイルス目	(福士秀人) ...	274
E. ポックスウイルス科	(森川 茂) ...	283
F. アスファウイルス科	(深井克彦) ...	288
G. イリドウイルス科	(大橋和彦) ...	291
2. 1本鎖DNAウイルス		294
A. パルボウイルス科	(下田 宙) ...	294
B. サーコウイルス科	(小川晴子) ...	301
C. アネロウイルス科	(小川晴子) ...	304
3. 逆転写酵素保有DNAウイルス	(小原恭子) ...	307
A. ヘパドナウイルス科		307
4. 2本鎖RNAウイルス		310
A. レオウイルス目	(山口剛士) ...	310
B. ビルナウイルス科	(山口剛士) ...	319
C. ピコビルナウイルス科	(古谷哲也) ...	323
5. プラス1本鎖RNAウイルス		324
A. ピコルナウイルス科	(深井克彦) ...	324
B. カリシウイルス科	(遠矢幸伸) ...	328
C. アストロウイルス科	(長井 誠) ...	332
D. ノダウイルス科	(村上 晋) ...	335
E. フラビウイルス科	(追田義博) ...	338
F. トガウイルス科	(岡林環樹) ...	345

G. マトナウイルス科	(萩原克郎) ...	349
H. ヘペウイルス科	(萩原克郎) ...	350
I. コロナウイルス科	(水谷哲也) ...	352
J. トバニウイルス科	(氏家 誠) ...	358
K. アルテリウイルス科	(高木道浩) ...	360
6.マイナス1本鎖RNAウイルス		364
A. パラミクソウイルス科・ニューモウイルス科	(伊藤啓史) ...	364
B. ラブドウイルス科	(伊藤直人) ...	372
C. フィロウイルス科	(高田礼人) ...	380
D. ボルナウイルス科	(朝長啓造) ...	383
E. オルトミクソウイルス科	(曾田公輔) ...	387
F. コルミオウイルス科	(小原恭子) ...	394
G. (ブニヤウイルス綱) ペリブニヤウイルス科, ハンタウイルス科, ナイロウイルス科.....	(苅和宏明) ...	395
7.アンビ1本鎖RNAウイルス		400
A. (ブニヤウイルス綱) フェヌイウイルス科	(松野啓太) ...	400
B. (ブニヤウイルス綱) アレナウイルス科	(下島昌幸) ...	404
8.逆転写酵素保有RNAウイルス	(宮沢孝幸) ...	408
A. レトロウイルス科		408
9.プリオン	(堀内基広) ...	416
 第11章 真菌学		423
1. 真菌の構造と増殖	(豊留孝仁) ...	424
A. 真菌の分類		424
B. 真菌の生活環		425
C. 真菌の性状		425
D. 真菌と宿主の相互作用		429
E. 真菌感染症の治療薬		431
2.動物の主な真菌症と病原真菌	(加納 墨) ...	432
A. 皮膚糸状菌		432
B. アスペルギルス		436
C. カンジダおよび類縁菌		437
D. クリプトコックス		437
E. マラセチア		439
F. スポロトリックス		440
G. ヒストプラスマ		440
H. ムーコル		441
I. ニューモシスチス		441
J. ピチウム(フハイカビ)		442
K. 黒色真菌		442
L. ブラストミセス		442
M. コクシディオイデス		442
N. ツボカビ		442
O.マイコトキシン		442
 第12章 微生物の滅菌と消毒	(片岡 康) ...	445
1. 滅菌		446
A. 加熱法		446

B. 照射法	447
C. ガス法	448
D. 濾過法	448
2. 消 毒	449
A. 物理的消毒法	449
B. 化学的消毒法	450
C. 消毒薬の分類と特性	451
D. 消毒方法	454
第 13 章 感染症の治療法	455
1. 抗菌薬	(浅井鉄夫) ... 456
A. 抗菌薬	456
B. 抗菌薬の種類	457
2. 薬剤耐性菌と化学療法	(浅井鉄夫) ... 459
A. 薬剤耐性菌	459
B. 化学療法	460
3. 菌交代症と副作用	(臼井 優) ... 462
A. 菌交代症	462
B. 副作用	463
4. ウィルス感染症の治療薬	(尾崎弘一) ... 465
A. 抗ウイルス薬と作用機序	465
B. インターフェロンと免疫製剤	467
C. 薬剤耐性ウイルス	469
第 14 章 感染症の予防法	471
1. ワクチン	(下地善弘) ... 472
A. ワクチンの種類と特徴	472
2. ワクチネーション	(迫田義博) ... 473
A. 感染症に対する免疫の獲得	473
B. ワクチンの効果に影響を与える要因	474
C. 予防接種の方法	474
D. ワクチン接種に伴う副反応	475
3. 獣医学領域における感染症の予防	475
A. 国内外で承認されている細菌感染症ワクチン	(下地善弘) ... 475
B. 国内外で承認されているウィルス感染症のワクチン	(迫田義博) ... 477
C. 次世代ワクチンの開発	(下地善弘) ... 479
索 引	481